

自治基本条例推進委員会 別班

報告

別班メンバー

松本清香委員、松井裕督委員、水口一也委員
市職員

まちづくり推進課 片岡まり子



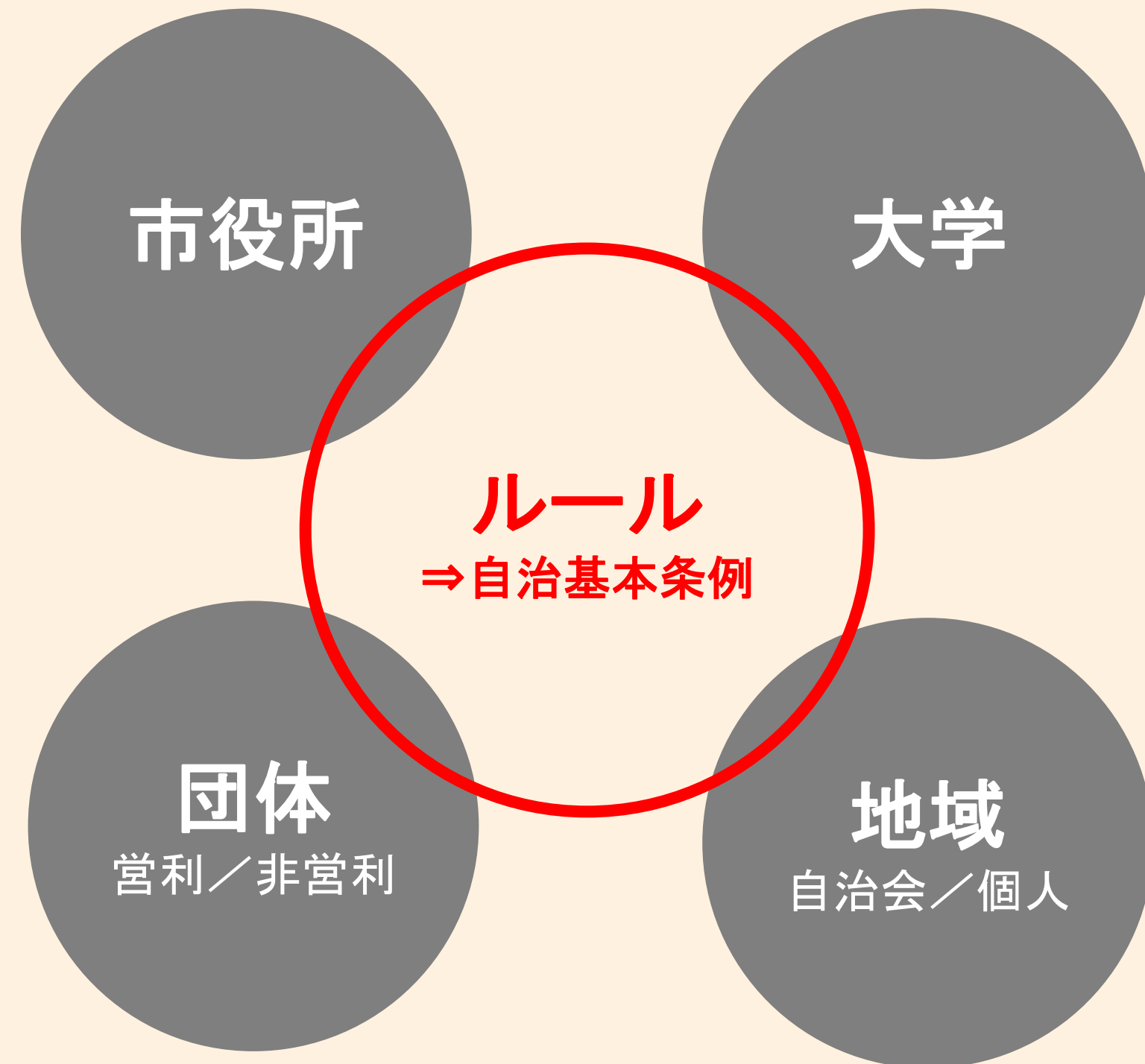
別班の議題について

1. 自治基本条例を市民に広く知ってもらう。
2. 自治基本条例の目的・意義を、市が理解し、日々の業務に反映する。
3. 自治基本条例推進委員会の目的（Mission）を提案する

そもそも自治基本条例とは

様々な主体が
一緒に何か取り組むとき、
みんなで共通したルールが
必要。

そのルールとして、
「自治体の憲法」
「まちづくりのルール」
とも呼ばれている
自治基本条例が施行されている



別班からの提案

自治基本条例が広く周知され、
条例が目指すまちづくりの取組が
広がっている未来

Vision
目指す
未来像

主体的にまちにかかわる市民が増えていくまち

まず
取り組む
こと

多くの市民、そして市議会及び市の執行機関に
自治基本条例の理解を深める取組を進める

Strategy
戦略

【主要なターゲット層】
次世代を担う、若い世代
【ターゲット層へのアプローチ方法】
知ってもらうため、より理解を深めてもらうためには、
世代ごとに、アプローチ方法を変える必要がある。

未来像を実現するために
条例が目指していることを
知ってもらう取組を進める

Vision
未来像

主体的にまちにかかわる市民が増えていくまち

Visionを実現
するために

自治基本条例推進委員会のMission（目的）の提案

「市議会及び市の執行機関が自治基本条例を理解し推進しているか、状況把握と改善」
「多くの市民に自治基本条例を周知する」
「条例が目指すその先について、時代と共に、世代の違いも越え、
市や市民と共有しながら、見直していく」

【具体的に本委員会で取り組むこと】

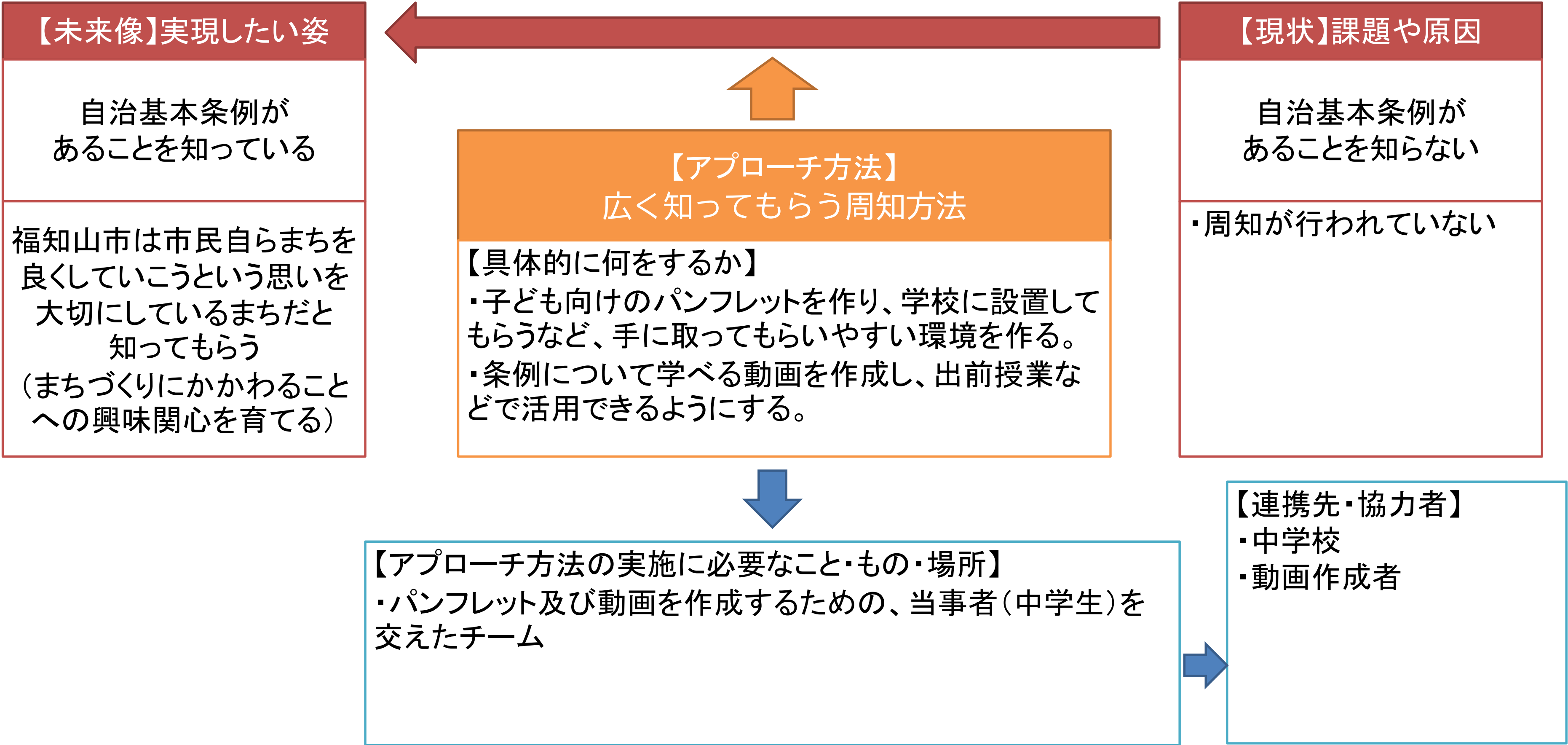
- 1（市役所内に向けて）○条例に基づいた取組が行われているか、運用状況の確認（定点観測）。
○市が設置する各委員会における市民公募委員の参加状況や、会議の公開状況の他、市政に関する市民への情報提供の状況等の確認及び助言。
- 2（市民に向けて）○継続的で効果的な周知方法への助言等。
- 3（2と関連して）○住民自治又は市民協働の見える化への助言及び情報提供。

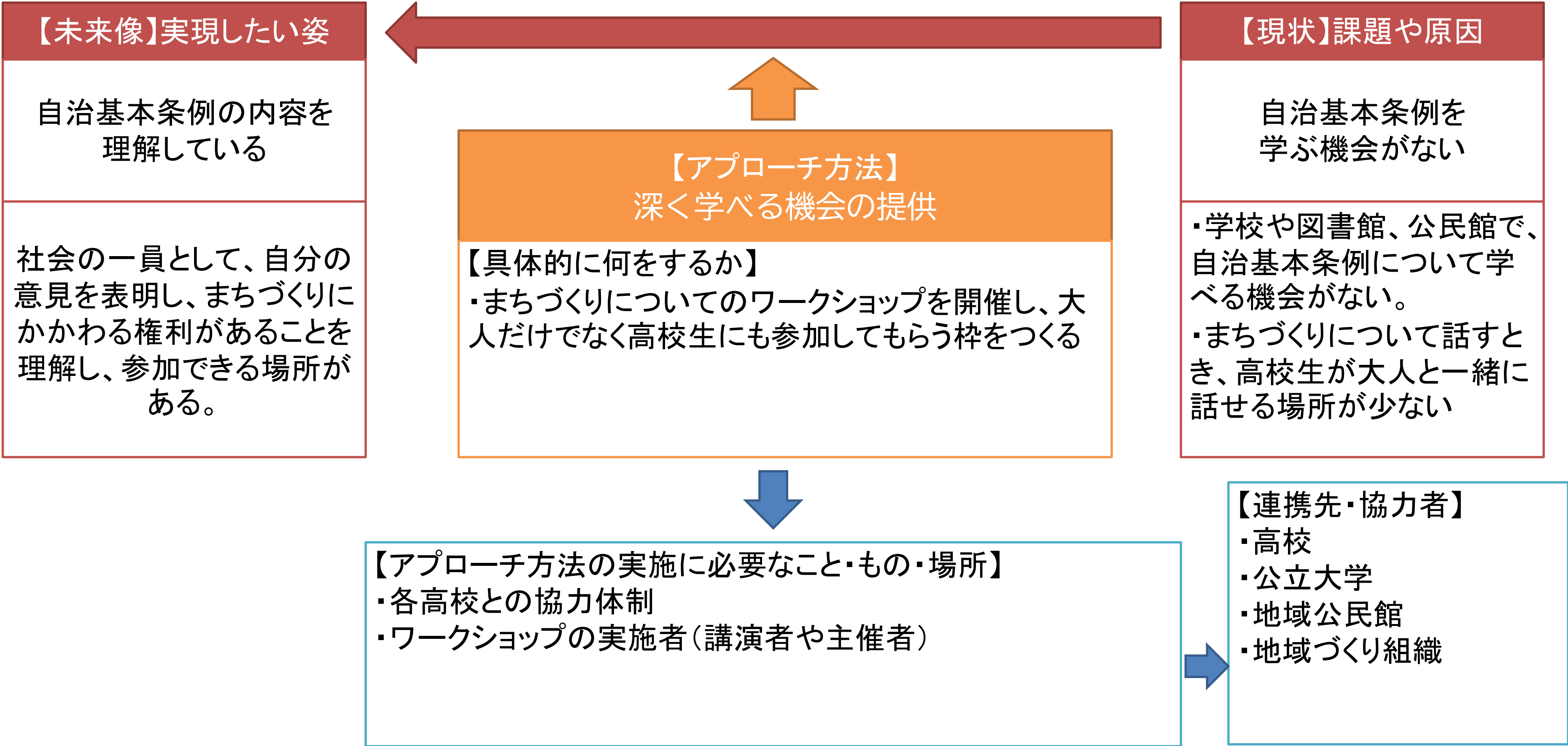
【市事務局がやるべきこと】

- 1 自治基本条例について委員が学べる機会を提供。（例：読み合わせの実施や専門家の招致等）
- 2 条例の推進状況について、委員に分かりやすい現状の報告。（例：具体的な事例紹介等）

アプローチ方法の提案

対象: 中学生





アプローチ方法の提案

対象:20歳

【未来像】実現したい姿

条例を理解し、
具体的に生かせる同世代
のネットワークもある

【現状】課題や原因

高校卒業後は地元との
繋がりが薄れる

- ・20代以上でふるさとで集
まる機会が少ない

【アプローチ方法】 20歳を祝う会を活用

【具体的に何をするか】

- ・条例についての分かりやすいチラシを配布
- ・まちづくりにかかわりたい人をつなぐSNS

【アプローチ方法の実施に必要なこと・もの・場所】

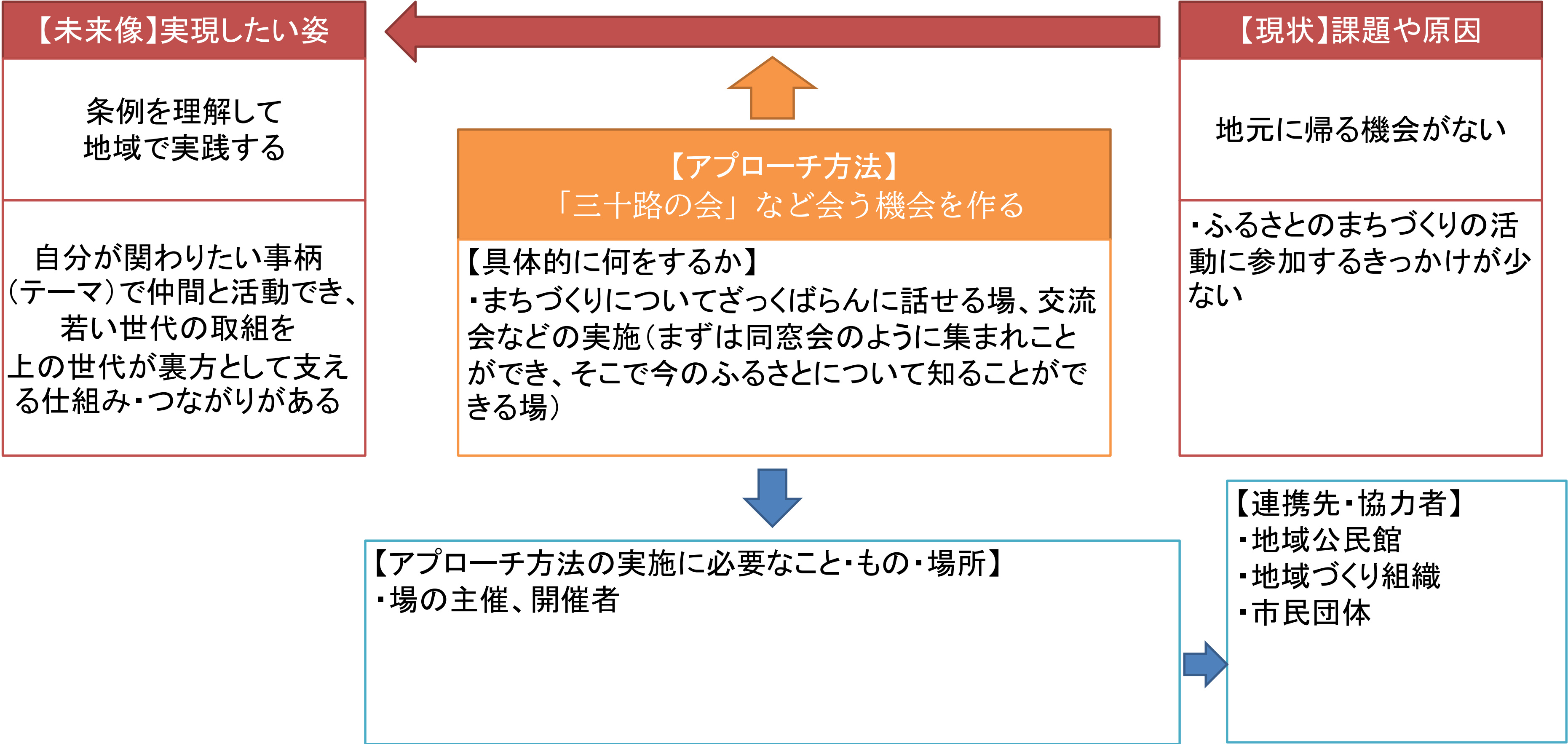
- ・チラシの作成
- ・SNSサービスの運営管理

【連携先・協力者】

アプローチ方法の提案

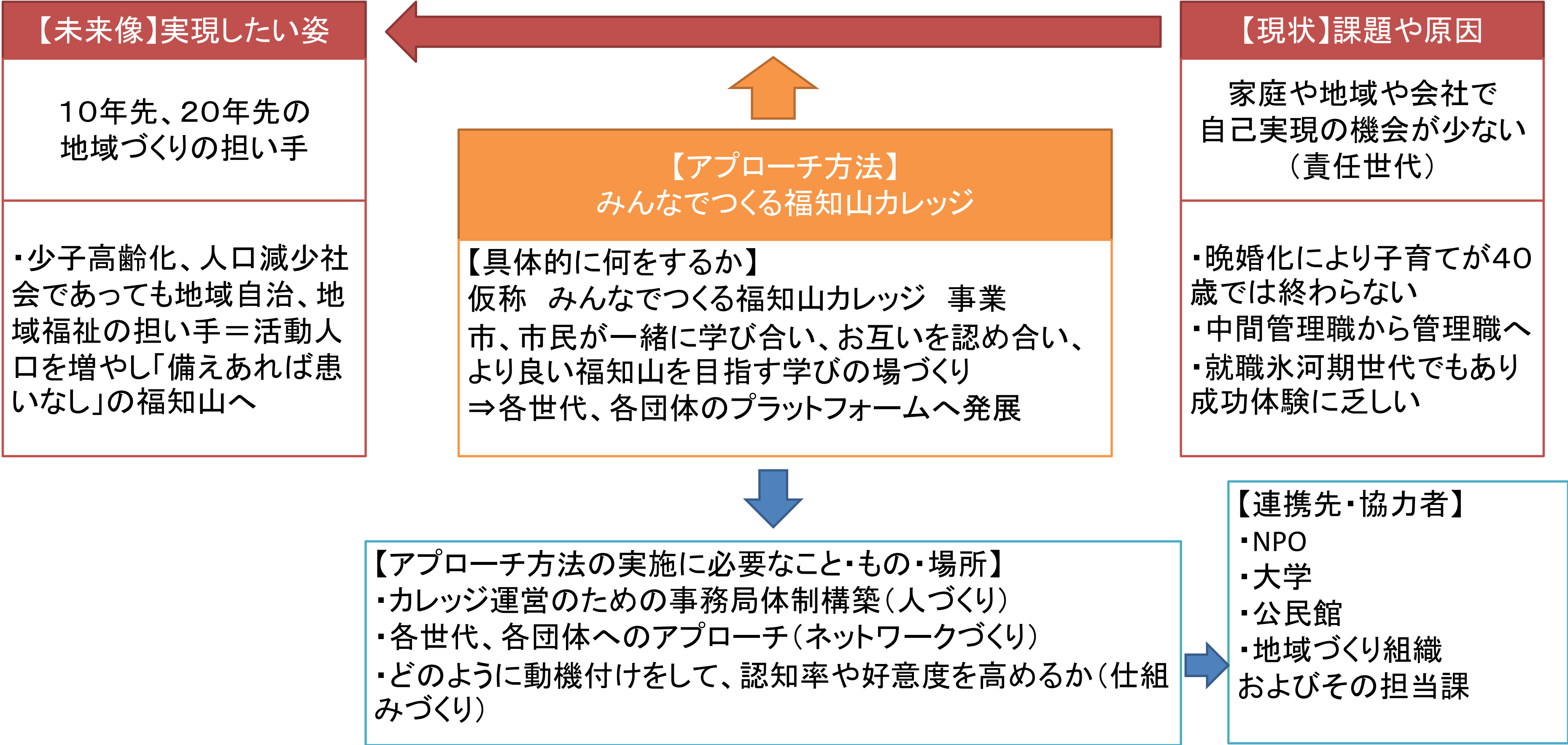
対象: **30歳**

仕事や家庭について
これからを考える世代



アプローチ方法の提案

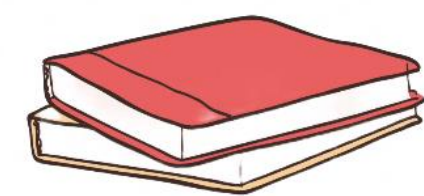
対象: **40～50歳** 社会の中核を担う重要な世代



読み解く会 まとめ



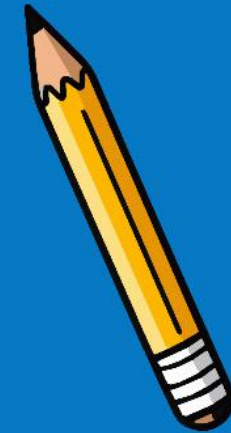
まちづくり構想を 職員と読み解く会



2024年1月13日（土）
14時開始16時終了予定
市民交流プラザ4階アトリエ

令和4年からの第3期福知山市自治基本条例推進委員会では、まちづくり構想ふくちやまの「市民から市民への21の提案」の実現にむけて議論を重ねてきました。しかし、そもそもまちづくり構想とは何か？また、自治基本条例とは何か？そんな素朴な疑問から、令和5年に「別班」と言う班を作り「そもそも」を解消するために、今回「読み解く会」を開催することになりました。

対 象：福知山市民でテーマに興味関心のある方
参加費：無料
定 員：20名
申 込：hmmatsui1130@gmail.com（担当：松井）
またはQRコードよりfacebookページもしくは、
福知山市まちづくり推進課24-9174（担当：片岡）へ
主 催：福知山市自治基本条例推進委員会 別班、
福知山市まちづくり推進課



地域組織研究所
facebookページ

■■■市職員や委員みなさんの参加也大歓迎■■■

11名の参加

公募委員3名、副委員長1名、市民(元職員)1名、職員(事務局)4名、職員(松井知人)2名

条例や構想に興味関心を持つ市、市民はそう多くはない

過去、条例に関わった人達からは、現状に落胆の声もあった

条例制定後、問題定義をしたが、その後はなしのつづて

条例がひろく浸透していないからかトラブルも

21の提案そのものが、市から市民への押し付けに感じる

市民として、当事者として、21の提案を実現したい

⇒条例、構想が目指す先のイメージが必要ではないか？

カレッジ事業イメージ

仮称 みんなでつくる福知山カレッジ 事業

事務局	他の世代との 学びや出会いの場づくり	他の団体との 連携や参画
40代、50代を メインターゲット	20代、30代を メインターゲット	NPO、地域づくり組織などを メインターゲット
市や市民から募集をする 任期制（1年～3年）	アイデア募集をして 事務局として参画	アイデア募集をして 事務局として参画
カレッジ受講生〇名、 次の事務局〇名を目指す	二十歳の集いや三十路式など 募集アイデアの実現	中間支援組織に変わる ネットワークそしてプラットフォーム づくり